東北がんプロフェッショナル養成プラン

「冬のがん薬物療法セミナー」

平成20年1月19日(土）・20日（日）、蔵王温泉こまくさ荘

報告書

平成20年2月17日

目次

・開催概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

・プログラム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

・ポスター ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

・受講者リスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

・がんプロと専門医（石岡 千加史） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

・主催者側報告書（加藤　俊介） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

・受講者側報告書（坂本　康寛） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

・受講者側報告書（工藤　千枝子） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

・受講者アンケート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

・写真 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

開催概要

本年４月のがん対策基本法の施行とともに、今後のがん医療を担う質の高いがん専門医等を養成することを目的とした、文部科学省の公募事業「がんプロフェッショナル養成プラン」の公募があり、東北大学、山形大学、福島県立医科大学の３大学と、東北４県２２病院の連携による東北がんプロフェッショナル養成プランは、極めて高い評価

（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/07/07072712.htm）を得て本年７月に５年間のプロジェクトとして採択されました。

この度、東北がんプロフェッショナル養成プランの初年度事業の一環として、平成 20 年 1 月 19 日（土）と 20 日（日）の 2 日間、「冬のがん薬物療法セミナー」（別紙参照）を開催いたしました。本セミナーでは、主に 3 大学の各領域の専門医が、がん薬物療法を中心に最新の放射線治療や緩和医療を含めた臨床腫瘍学の基本とトピックスを講義しました。また、東北がんプロフェッショナル養成プランの今後の事業を推進させたるために、教員・受講生間の交流を行いました。　受講対象は、東北がんプロフェッショナル養成プランの採択によって新たに 3 大学医学系研究科に新設された腫瘍専門医コース（がん薬物療法）への入学が来年度に予定されているか、または将来入学を検討する初期・後期研修医、または日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医の認定資格を目指す若手医師で、20名（宮城県9名、福島県6名、山形県2名、青森県2名、静岡県1名）が受講しました。なお、講義は東北大学インターネットスクース用に収録しました。

(1)名称：東北がんプロフェッショナル養成プラン「冬のがん薬物療法セミナー」

(2)主催：東北がんプロフェッショナル養成プラン
（東北大学大学院医学系研究科）
共催：橋渡し研究支援推進プログラム
後援：特定非営利活動法人　東北臨床腫瘍研究会

（３）日時：2008年1月19日、20日

（４）場所：山形県山形市蔵王温泉932-4　こまくさ荘

（５）対象：初期・後期研修医、若手医師

（６）募集人員：20名程度、実際の受講者　20名

（７）講師：16名（東北大学11名、山形大学2名、福島医大1名、弘前大学1名、宮城県立がんセンター1名）

（８）目的：

東北がんプロフェッショナル養成プランの腫瘍専門医コース（がん薬物療法）への入学が来年度に予定されているか、または将来入学を希望する初期・後期研修医、またはこれに準ずる若手医師を対象に、臨床腫瘍学の基本とトピックスをがん薬物療法分野を中心に講義するとともに、教員・受講生間の交流を促進し、東北がんプロフェッショナル養成プランの事業を推進する。

「冬のがん薬物療法セミナー」

セミナープログラム

1日目（1月19日）

13：20～			
{開会挨拶}		石岡千加史先生	
がんプロと専門医	東北大学加齢医学研究所	石岡千加史先生	10分
腫瘍生物学	東北大学加齢医学研究所	柴田　浩行先生	20分
放射線腫瘍学1(高精度放射線治療）	東北大学病院放射線治療科	小川　芳弘先生	20分
抗がん剤総論1（化学療法剤）	山形大学医学部臨床腫瘍学分野	吉岡　孝志先生	20分
大腸癌	東北大学病院腫瘍内科	大塚　和令先生	20分
{コーヒーブレイク}			20分
胃癌	福島県立医科大学病院臨床腫瘍センター	寺島　雅典先生	20分
抗がん剤とアナフィラキシー	東北大学病院腫瘍内科	角道　祐一先生	20分
乳癌	東北大学病院乳腺・内分泌外科	石田　孝宣先生	20分
卵巣癌	東北大学病院婦人科	高野　忠夫先生	20分
～17：00			
17：00～19：00	夕食		
19：00～21：00	専門医Q＆A、討論会		

2日目（1月20日）

9：00～			
{2日目開会挨拶}		吉岡　孝志先生	
がん登録	宮城県立がんセンター	西野　善一先生	20分
抗がん剤総論2（分子標的薬）	東北大学病院腫瘍内科	加藤　俊介先生	20分
緩和医療	東北大学病院緩和医療科	島田　哲先生	20分
{コーヒーブレイク}			20分
悪性リンパ腫	東北大学病院血液・免疫科	石澤　賢一先生	20分
非小細胞肺癌	弘前大学医学部腫瘍内科	西條　康夫先生	20分
放射線腫瘍学2（粒子線治療）	山形大学医学部放射線腫瘍学分野	根本　建二先生	20分
～12：00			

東北がんプロフェッショナル養成プラン

冬のがん薬物療法セミナー

日時：2008年1月19日-20日
場所：山形県山形市蔵王温泉932-4　公立学校共済組合蔵王保養所　こまくさ荘
対象者：東北がんプロフェッショナル入学予定あるいは希望の初期・後期研修医
受講者定員：20名　　参加費：1000円
主催：東北がんプロフェッショナル養成プラン
共催：橋渡し研究支援推進プログラム
後援：特定非営利活動法人　東北臨床腫瘍研究会

目的：東北がんプロフェッショナル養成プランへの入学が来年度に予定されているか、または将来入学を希望する初期・後期研修医、またはこれに準ずる若手医師を対象に、臨床腫瘍学の基本とトピックスをがん薬物療法分野を中心に講義するとともに、教員・受講生間の交流を促進し、東北がんプロフェッショナル養成プランの事業を推進する。

プログラム（1月19日）
- がんプロと専門医
- 腫瘍生物学
- 放射線腫瘍学1（高精度放射線治療）
- 抗がん剤総論1（化学療法剤）
- 大腸癌
- 胃癌
- 抗がん剤とアナフィラキシー
- 乳癌
- 卵巣癌

プログラム（1月20日）
- がん登録
- 抗がん剤総論2（分子標的薬）
- 放射線腫瘍学2（粒子線治療）
- 緩和医療
- 悪性リンパ腫
- 非小細胞肺癌

予定講師：石岡千加史（東北大学）、根本建二（山形大学）、吉岡孝志（山形大学）、寺島雅典（福島医科大学）、柴田浩行（東北大学）他

連絡先：
仙台市青葉区星陵町4－1　東北大学加齢医学研究所　癌化学療法研究分野
加藤俊介
庄司雅子（東北臨床腫瘍研究会）
Tel 022-717-8547　mail: katoshun@idac.tohoku.ac.jp

受講者リスト(20名）

所属病院	所属診療科
みやぎ県南中核病院	研修医
国際医療福祉大学　熱海病院	研修医
八戸市立市民病院	外科
八戸市立市民病院	研修医
総合南東北病院	初期研修医
総合南東北病院	外科
総合南東北病院	研修医
総合南東北病院	研修医
総合南東北病院	研修医
総合南東北病院	研修医
東北労災病院	研修医
東北労災病院	研修医
山形大学医学部	医員
山形大学医学部	研修医
大崎市民病院	研修医
東北大学病院	研修医
みやぎ県南中核病院	研修医
東北労災病院	研修医
東北大学大学院医学系研究科	院生
東北大学大学院医学系研究科	院生

がんプロと専門医　東北がんプロフェッショナル養成プランが目指すもの

東北大学加齢医学研究所・教授
本プラン分担コーディネータ
石岡千加史

はじめに

本養成プランは、東北大学、山形大学、福島県立医科大学の3大学と地域の22がん診療連携拠点病院が連携して多職種のがん専門医療者を養成する広域教育システムである。平成19年10月、菅村和夫東北大学副学長、嘉山孝正山形大学医学系研究科長、藤田禎三福島県立医科大学副学長により協定調印式が行われ、同11月にステアリング・コミティである東北がん評議会が発足して本プランがスタートした。

１．プラン全体の概要・特色(図１～６)

本養成プランは、がん対策の一層の充実を図るため、若い人材を啓発し、専門資格取得のために必要な学識・技能習得させ、学際的かつ総合的な臨床研究推進能力を有したがん専門医療者を養成する大学・地域一体の包括的教育プログラムである。基本理念「がんの克服を目指し、患者を優先する全人的がん医療の実現」の下に、ミッションとして、①先端がん医療を切り開く国際的がん臨床研究のリーダー、包括的能力を有する質の高い地域のがん専門医療者の養成、②がん専門医療者の人事交流とがん医療の標準化の推進による地域がん医療水準の均てん化、③臨床試験と地域がん登録の推進によるがん医療水準の向上、を目指す。本プランは、東北大学、山形大学、福島県立医科大学と２２病院が連携する広域プランであり、履修単位の互換や社会人入学制度を有する(図６)柔軟な教育システムを実現する。

２．組織体制の概要

（１）管理・運営体制(図４)

「東北がん評議会」をステアリング・コミティとして設置し、①地域間、大学間、病院間、職域間の円滑な連携を強化し、②がん医療の標準化、臨床試験と地域がん登録の推進を実行する。また、③医療機関の整備など地域がん医療の課題を検討し、④国、地方自治体、職能団体や各医療機関へ解決策を提言することにより、がん医療水準の向上に貢献する。

「運営委員会」を評議会の下に置き、①教育に関する事業計画を作成と実施、②専門資格に必要な学識・技能の習得を可能にする教育システムの確保、③がん専門医療者を目指す若い人材の発掘、④職域を越えた地域のがん専門医療者の養成、を行う。さらに、⑤実績を定期的に取りまとめて東北がん評議会に報告する。

「評価委員会」を外部に置き、本プランの進捗、臨床試験やがん登録の推進状況等の

視点から年１回成果を評価し、東北がん評議会は評価に基づき運営委員会に勧告を行う。
（２）コーディネータの役割
統括コーディネータ（東北大学病院がんセンター長・山田章吾）はプラン全体を指揮し、各大学の実績を取りまとめて運営委員会に報告、評価結果に応じた予算配分を行う。
分担コーディネータ（東北大学・石岡千加史、山形大学・深尾　彰、福島県立医科大学・棟方　充）は、各大学において①研究科間、大学・病院間の円滑な横断的教育の調整、各大学教務委員会と連携して、②チーム医療、国際性の視点から教育カリキュラムの調整、③高い専門性を有する教員の確保、④学生の履修状況の把握と助言、⑤修了者の生涯教育支援、を行う。

３．養成計画（履修方法）（図２、３）
（１）腫瘍専門医コース（博士課程）
放射線腫瘍コース（日本放射線腫瘍学会認定医、日本医学放射線学会専門医（治療））とがん薬物療法コース（がん薬物療法専門医）を3大学に設置する。緩和医療コース（将来の専門医制度を想定）は東北大学に設置する。各専門医制度の要件を満たすように3大学共通の臨床腫瘍学特論および放射線・化学療法・緩和ケアの実習を必修化した。また、がん治療認定医資格取得にも対応する。
（２）コメディカルのためのがん医療専門職養成コース（修士課程）
がん看護専門看護師コースを東北大学と福島医大に、がん専門薬剤師コースと医学物理士コースを東北大学と山形大学に、乳腺腫瘍専門診療放射線技師コースを山形大学に設置する。教育課程は日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程、日本病院薬剤師会のがん専門薬剤師のカリキュラム等に準じ、さらに腫瘍専門医コースの講義と実習の一部の履修を必修化する。
（３）がん専門インテンシブ研修コース（学位を必要としないコース）
特殊放射線治療習得、婦人科腫瘍概論（短期）、がん薬物療法チーム研修、放射線治療品質管理士養成、がん口腔ケア特別研修、口腔がん健診特別研修、院内がん登録業務習得（以上東北大）、放射線治療（福島医大）、乳腺腫瘍外科（東北大、福島医大）、がん専門薬剤師養成（東北大と山形大）、がん薬物療法、がん治療認定医養成（以上3大学）の計18コースを設定。

４．期待される波及効果
本プランは、１．医療機関にがん専門医療者配置、２．大学・拠点病院に指導者確保、３．専門の大学講座・病院診療科の設置、４．学部教育での臨床腫瘍学の実施、５．臨床試験推進、６．地域がん登録・院内がん登録推進、７．地方におけるがん診療ネットワーク構築、等を推進し、がん医療水準の向上に寄与するほか、８．他領域の大学・地域一体型教育のモデルとして期待される。

図1.　東北がんプロフェッショナル養成プランの
教育プログラムの特色
連携
• 3大学連携
• 大学・がん拠点病院連携
横断的教育カリキュラム
• 大学・学科間共通臨床腫瘍学特論
• がんプロ合同セミナー
地域・時間を越えた教育
• 社会人入学・連携病院実習
• インターネット・スクール

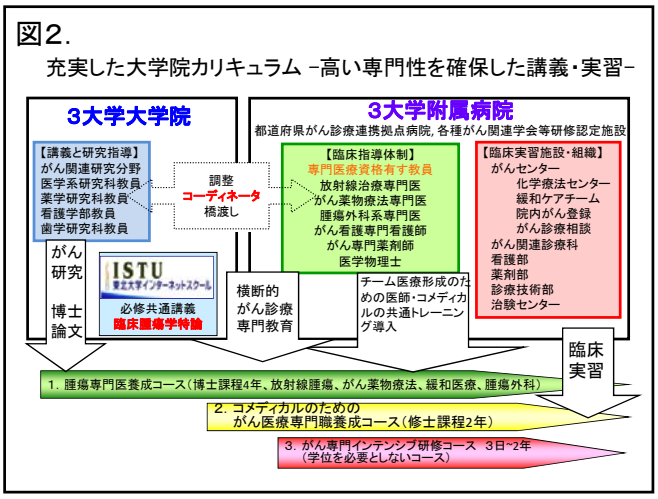


図2.
充実した大学院カリキュラム –高い専門性を確保した講義・実習–
3大学大学院
3大学附属病院
都道府県がん診療連携拠点病院, 各種がん関連学会等研修認定施設
【講義と研究指導】
がん関連研究分野
医学系研究科教員
薬学研究科教員
看護学部教員
歯学研究科教員
調整
コーディネータ
橋渡し
【臨床指導体制】
専門医療資格有す教員
放射線治療専門医
がん薬物療法専門医
腫瘍外科系専門医
がん看護専門看護師
がん専門薬剤師
医学物理士
【臨床実習施設・組織】
がんセンター
化学療法センター
緩和ケアチーム
院内がん登録
がん診療相談
がん関連診療科
看護部
薬剤部
診療技術部
治験センター
がん研究
博士論文
ISTU
必修共通講義
臨床腫瘍学特論
横断的
がん診療
専門教育
チーム医療形成のための医師・コメディカルの共通トレーニング導入
臨床実習
1. 腫瘍専門医養成コース（博士課程4年、放射線腫瘍、がん薬物療法、緩和医療、腫瘍外科）
2. コメディカルのための
がん医療専門職養成コース（修士課程2年）
3. がん専門インテンシブ研修コース　3日~2年
（学位を必要としないコース）

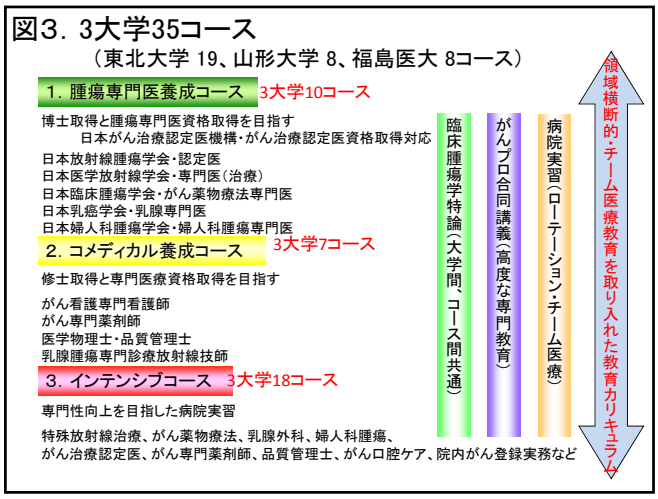


図3. 3大学35コース
（東北大学 19、山形大学 8、福島医大 8コース）
1. 腫瘍専門医養成コース　3大学10コース
博士取得と腫瘍専門医資格取得を目指す
日本がん治療認定医機構・がん治療認定医資格取得対応
日本放射線腫瘍学会・認定医
日本医学放射線学会・専門医（治療）
日本臨床腫瘍学会・がん薬物療法専門医
日本乳癌学会・乳腺専門医
日本婦人科腫瘍学会・婦人科腫瘍専門医
2. コメディカル養成コース　3大学7コース
修士取得と専門医療資格取得を目指す
がん看護専門看護師
がん専門薬剤師
医学物理士・品質管理士
乳腺腫瘍専門診療放射線技師
3. インテンシブコース　3大学18コース
専門性向上を目指した病院実習
特殊放射線治療、がん薬物療法、乳腺外科、婦人科腫瘍、
がん治療認定医、がん専門薬剤師、品質管理士、がん口腔ケア、院内がん登録実務など
臨床腫瘍学特論（大学間、コース間共通）
がんプロ合同講義（高度な専門教育）
病院実習（ローテーション・チーム医療）
領域横断的・チーム医療教育を取り入れた教育カリキュラム

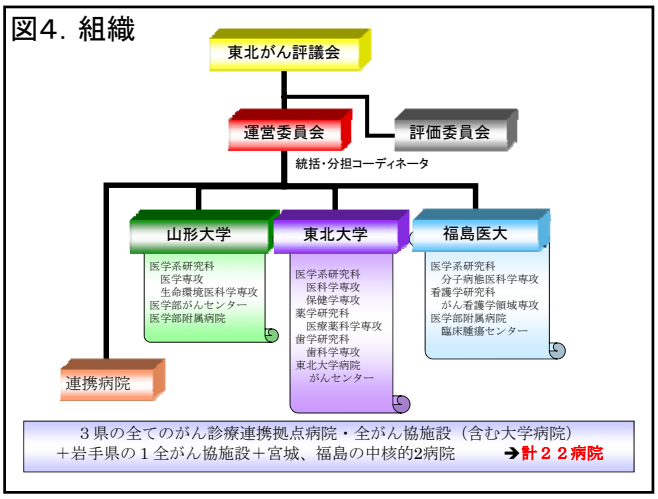


図4. 組織
東北がん評議会
運営委員会
評価委員会
統括・分担コーディネータ
山形大学
医学系研究科
医学専攻
生命環境医科学専攻
医学部がんセンター
医学部附属病院
東北大学
医学系研究科
医科学専攻
保健学専攻
薬学研究科
医療薬科学専攻
歯学研究科
歯科学専攻
東北大学病院
がんセンター
福島医大
医学系研究科
分子病態医科学専攻
看護学研究科
がん看護学領域専攻
医学部附属病院
臨床腫瘍センター
連携病院
3県の全てのがん診療連携拠点病院・全がん協施設（含む大学病院）
＋岩手県の１全がん協施設＋宮城、福島の中核的2病院
➔計２２病院

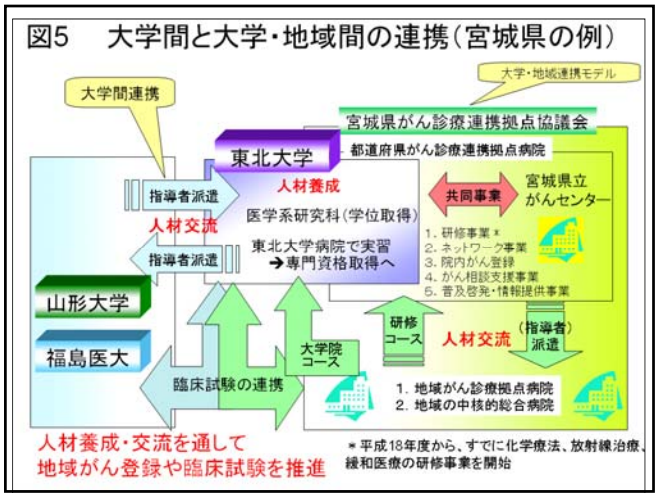


図5　大学間と大学・地域間の連携（宮城県の例）
大学間連携
大学・地域連携モデル
宮城県がん診療連携拠点協議会
都道府県がん診療連携拠点病院
東北大学
指導者派遣
人材養成
医学系研究科（学位取得）
人材交流
指導者派遣
東北大学病院で実習
➔専門資格取得へ
共同事業
宮城県立
がんセンター
1. 研修事業＊
2. ネットワーク事業
3. 院内がん登録
4. がん相談支援事業
5. 普及啓発・情報提供事業
山形大学
福島医大
研修
コース
人材交流
（指導者）
派遣
大学院
コース
臨床試験の連携
1. 地域がん診療拠点病院
2. 地域の中核的総合病院
人材養成・交流を通して
地域がん登録や臨床試験を推進
＊平成18年度から、すでに化学療法、放射線治療、
緩和医療の研修事業を開始

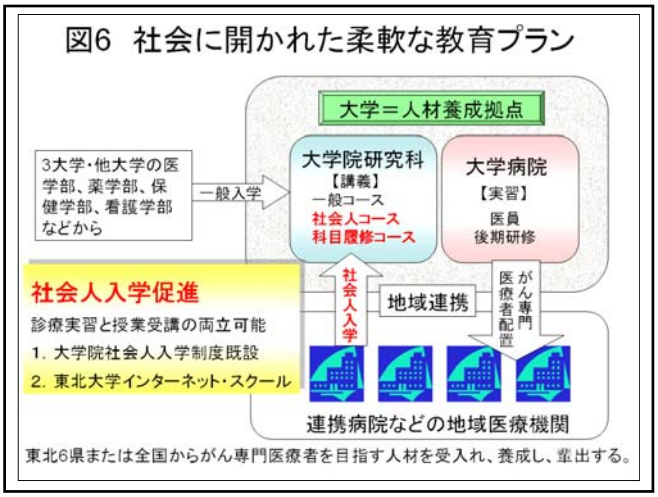


図6　社会に開かれた柔軟な教育プラン
大学＝人材養成拠点
3大学・他大学の医学部、薬学部、保健学部、看護学部などから
一般入学
大学院研究科
【講義】
一般コース
社会人コース
科目履修コース
大学病院
【実習】
医員
後期研修
社会人入学促進
診療実習と授業受講の両立可能
1. 大学院社会人入学制度既設
2. 東北大学インターネット・スクール
社会人入学
地域連携
がん専門医療者配置
連携病院などの地域医療機関
東北6県または全国からがん専門医療者を目指す人材を受入れ、養成し、輩出する。

東北がんプロフェッショナル主催
「冬のがん薬物療法セミナー」報告書

東北大学病院腫瘍内科　　講師　加藤　俊介

2007 年 7 月末に東北がんプロフェッショナル養成プランが採択されたことを受け、初年度事業の一環として「冬のがん薬物療法セミナー」を 2008 年 1 月 19 日、20 日の 2 日間にわたり山形県山形市蔵王のこまくさ荘を企画し、開催しましたのでご報告いたします。

セミナーは、将来的に東北がんプロフェッショナルの腫瘍専門医養成コースへの入学を目指す初期研修医、若手医師を受講対象者とし、講師陣は東北大学、山形大学、福島県立医大の 3 大学を中心に 15 人の講師を招いて、臨床腫瘍学の基本とトピックスについてがん薬物療法を中心に講義するとともに、教員・受講生間の交流の促進を目的として企画いたしました。

11 月中旬に東北地方の 58 の病院にセミナー開催概要のポスターを送付するとともに、東北大学病院がんセンター、東北大学加齢医学研究所癌化学療法研究分野のホームページを介して参加者の募集を告知した結果、最終的に北は青森から南は静岡まで、総勢 20 名の臨床腫瘍学に興味を持った若い医師の参加がありました。

1 日目のセミナーは、東北がんプロフェッショナル養成プランの東北大学分担コーディネーターの石岡先生から腫瘍専門医の必要性と東北がんプロフェッショナルの役割についての説明があった後、腫瘍生物学、高精度放射線治療、抗がん剤総論、抗がん剤とアナフィラキシー、各種臓器各論についての講義がありました。

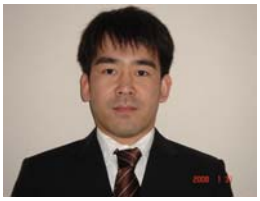
1 日目の講義終了後の夕食時には、改めて全員の自己紹介が行われて打ち解けた雰囲気の中、講師陣と若手医師が酒を酌み交わしながらの談話や、あるいはナイタースキーや樹氷観光などのレクリエーションで交流を深めました。

2 日目の講義は、緩和医療、がん登録、分子標的薬、重粒子線、各種臓器各論についての講義が行われました。

2 日間の講義は、明日からすぐに臨床現場で使える知識から、最先端の研究や治療方法まで多岐にわたっており、受講生の皆さんには改めて臨床腫瘍学の占める領域の広さと重要性を理解した大変濃厚な 2 日間であったと思われます。また、講師陣にとっては、エネルギッシュな若い受講生を目の前にして、自分たちの分野を志した時の初心に戻り、次の日からの活力を得た 2 日間であったと思います。

最後に受講生から頂いたアンケート結果をもとに、来年以降もさらに充実したセミナーが企画できるように願っています。

「冬のがん薬物療法セミナー」を受講して



東北大学大学院医学系研究科
大学院生　坂本　康寛

私は、腫瘍内科大学院 2 年目の者です。一般外科で 4 年間研修し、忙しさに追われて臨床現場での化学療法が片手間のなっている現状を何とかできないかという思いが強くなって腫瘍内科に転向しました。外科時代もそうでしたが日常診療で診る疾患は主に消化器がんのため、本セミナーは他臓器のがんを勉強できるいい機会であり、また、がん治療に必要とされる緩和医療科、放射線治療科、外科との連携を学ぶ上でも重要と考え応募しました。

会場の蔵王温泉は風情のある温泉街で、独特の硫黄泉のにおいが気分を高揚させました。日中は他の宿泊客がスキーに行くため、とても静かな環境でセミナーを受けることができました。

セミナーでは腫瘍内科はじめ、血液内科、婦人科、外科、放射線科の高名な先生方から、現在の標準的治療と最新の治療や今後の展望について非常にためになる講義をしていただきました。どの先生にも共通するのがエビデンスに基づいてがん治療を進めていくという考えであり、新しい治療法を開発するためには臨床試験を進めることが大切であるということでした。また、がん登録を進めていき、施設ごと、地域ごとに治療成績を出して臨床にフィードバックさせていく重要性を認識させられました。緩和医療科の先生からは、末期の患者さんの心理状態とその把握のしかた、投薬方法について学び、普段の診療ではまだまだ不十分であることを再認識させられました。

セミナーには、様々な施設、診療科から研修医の先生が来られており、懇親会でいろいろ話ができて楽しいひと時を過ごせました。講師の先生方ともざっくばらんに話ができ、諸先生方のがん治療にたいする熱意を感じることができました。

今回のセミナーを受講して改めて思ったことは、近年のがん治療の進歩はすさまじく、今後さらに開けていくと確信したこと、同時に自らもその一端を担って行きたいということです。私は外科研修時代に忙しくて、がん治療を勉強したくてもどこをどう勉強すればよいのかわからず困った思い出がありますが、そのときこのようなセミナーがあれば大変参考になったでしょうし、今回参加された研修医の方々は非常に幸運だと思います。今後もこのようなセミナーがあれば、是非参加したいと思います。

「冬のがん薬物療法セミナー」を受講して

東北大学大学院医学系研究科
大学院生　工藤　千枝子

2008 年 1 月 19 日･20 日､硫黄の香りがほんのり漂う冬の蔵王でセミナーは行われました。私は、諸事情で団体行動から外れて遅れて会場に入りましたが、既に会場は熱気に包まれており､聴衆の真剣なまなざしに圧倒されました｡参加者は約 20 名ほどでしたでしょうか。外科を目指す 1 年目研修医から第一線でがん治療に携わっている消化器科医まで、実に幅広い人材が集まったと思います。

Oncologist を目指す人のためのセミナー、と言えば、一昨年、国立がんセンター主催のセミナーに出席したことが思い出されます。日本の癌治療をリードする先生方の最新かつ実践的な話を聞けるもの、と期待して話を聞きに行ったのですが、残念ながら内容は国立がんセンターの成績や研修生活についてのものばかりで、がっかりしたものでした。振り返れば、対象が初期研修医から学生であったため、後期研修先として国立がんセンターをアピールしたかったのかもしれません。

この様な経験もあり、冬の薬物療法セミナーが腫瘍内科への単なる勧誘となりはしないかと心配していましたが、杞憂に終わりました。横断的な腫瘍学の講義でしたが、それぞれの分野の第一線で働く先生方が話す内容は、非常に興味深く勉強になるものばかりでした。

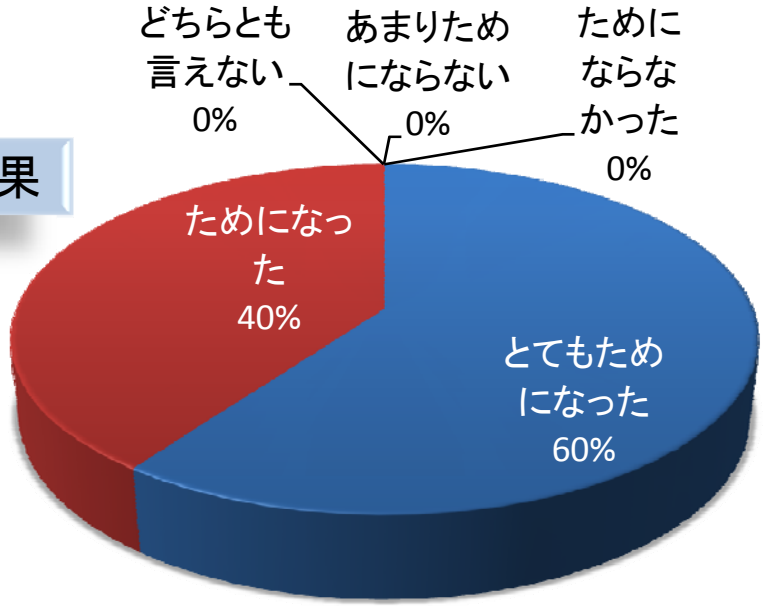
一日目の夕方より行われた懇親会は、立場も専門科も違う身ながらがん治療に携わる同じ志を持つものとして、お互い率直な意見を述べ合い、親交を深めることができました。また、有志で見に行った夜の樹氷（マイナス 15 度）では、ライトアップされたその幻想的な美しさと防寒ブーツからしみ込んでくる痛みを伴う寒さと共に忘れられない夜となりました。

2 日目も熱気はさめやらず、初日にもまして印象的な講義ばかりでした。普段あまり気にかけたことがない癌登録についての講演は、目からうろこでした。最後の放射線治療、特に重粒子線の話については、放射線治療のこれからの輝かしい活躍を垣間見るようでした。

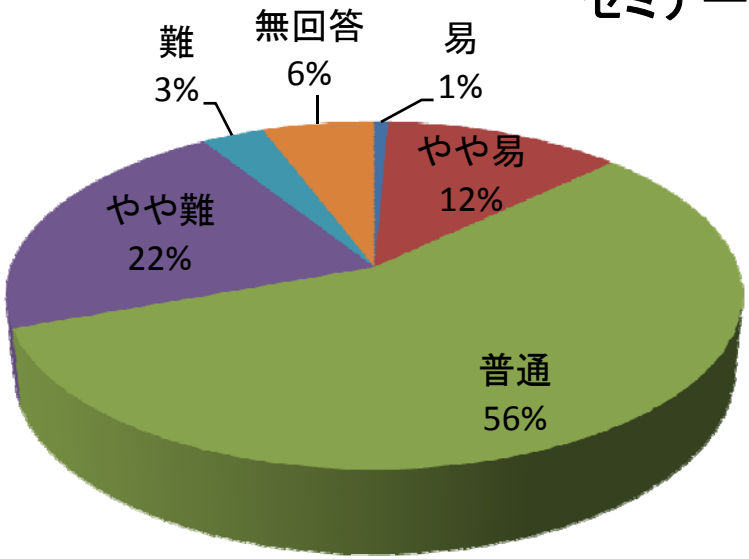
2 日間にわたるセミナーはあっという間に幕を閉じ､お互いの癌治療への思いにさらに磨きをかけて、解散となりました。

機会があれば、ぜひ次回も参加したいと思いました。

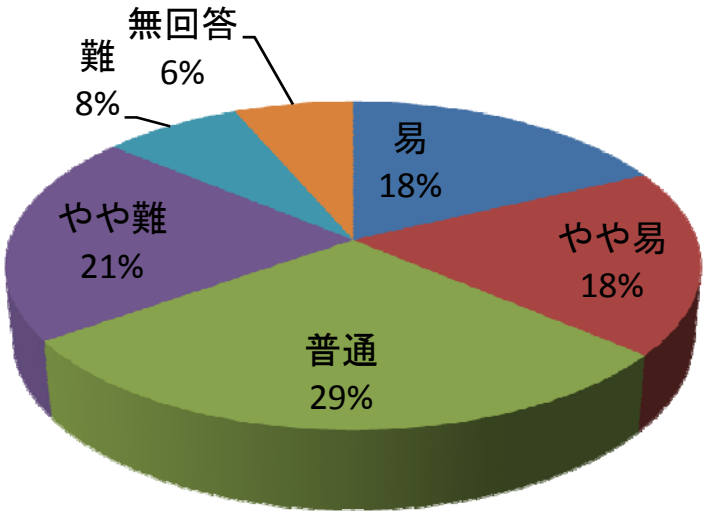
受講者（20名）アンケート結果



セミナーの有用性(感想）



講義内容の難易度



プレゼンテーションの理解しやすさ

受講者アンケート: 講義内容の難易度・わかりやすさ

	知識レベルの難易度					
	①	②	③	④	⑤	
講師	易	やや易	普	やや難	難	無回答
A	0	2	6	7	2	3
B	0	1	8	7	1	3
C	0	1	11	5	0	3
D	0	2	9	6	1	2
E	0	4	14	1	0	1
F	1	8	10	0	0	1
G	1	1	13	4	0	1
H	0	4	6	8	0	2
I	0	1	13	4	2	0
J	0	0	8	10	2	0
K	0	6	14	0	0	0
L	0	1	16	3	0	0
M	0	3	16	1	0	0
N	0	2	13	4	1	0

	プレゼンテーションの分かりやすさ					
	①	②	③	④	⑤	
講師	易	やや易	普	やや難	難	無回答
A	2	4	5	3	1	4
B	1	2	7	6	0	4
C	3	2	4	6	1	4
D	3	3	7	4	1	2
E	7	2	5	2	3	1
F	6	4	4	1	4	1
G	6	6	3	4	0	1
H	3	2	6	7	1	1
I	1	1	10	8	0	0
J	1	5	9	4	1	0
K	5	3	7	3	2	0
L	5	6	4	4	1	0
M	1	7	6	4	2	0
N	6	4	4	2	4	0

受講者アンケート： セミナーの感想

1．セミナーの有効性	①とてもためになった	12
	②ためになった	8
	③どちらとも言えない	0
	④あまりためにならない	0
	⑤ためにならなかった	0
2．開催時期	①この時期が良い	17
	②別の時期が良い （夏、大学院願書締切前、もう少し早い時期）	3
開催曜日	①土・日で良い	20
	②別の曜日	0
開催場所	①このような保養地　・観光地が良い	15
	②仙台などの都市部が良い	4
	どちらでもいい	1
3．交通手段	①チャーターバス利用は良かった	12
	②各自、自由な方が良い	7
	どちらでもいい	1

4．その他（自由に感想を）

＊プラス意見＊

・受講者及び講師とのコミュミケーションという意味で、合宿形式そして小規模人数制は良かった。
・血液や放射線など普段知れない話を聞けて良かった。
・色々な施設の先生、若い先生の考え方を聞けて良かった。
・興味深い話が沢山聞けて楽しかった。
・とても先生方の熱意を感じた。
・他の先生と交流を深めたり、興味ある分野の先生の話を聞いたり出来て、とても良い機会だった。
・癌の治療について、各分野の先生方の話を聞けて良かった。
・勉強する良い機会になった。
・講師の先生や研修医の先生と話が出来ると他の病院のことが分かり、モチベーションが上がった。
・実際に使用している薬剤の具体的な使い方などが参考になった。（アナフィラキシー、緩和ケアなど）
・論文データをスライドでまとめてもらえた点が良かった。
・講義をはじめ、二日間大変有意義なセミナーであったと思う。
・抗癌剤治療自体が専門的なことなので、数回の開催を考えるのであれば、もう少し分かりやすい内容の方が興味が持てたと思う。

＊マイナス意見＊

・中心となる講義時間や質問時間を犠牲にしてまで、遠方の観光地で行う意義はあまりなかったように感じた。
・腫瘍内科医、放射線治療医からのOPINIONに外科医としての意見を聞く機会ももっとあっても良かった。
・研修医として初めての参加でしたが、初回の内容としては難しすぎると思う。
・セミナーの宣伝をより重視した方が良いと思う。（知らない人が多い）
・各分野で、先生方が「ここが面白い」と思っているところがもう少し分かると良かった。
・アンケートは講義の初めに配布してもらえないと覚えてない。（正当な評価が出来ない）

島田　哲先生（東北大学）の講義風景

受講風景、手前は座長の吉岡孝志先生（山形大学）、奥はアドックス社によるビデオ撮影

根本建二先生（山形大学）の講義風景

第２日目　セミナー終了後、こまくさ荘玄関前で受講者と講師の集合写真